

## く検閲で残った学校新聞く

本来、検閲は民主主義にな  
じまず、現憲法でも禁じられ  
ていますが、戦後の民主改革  
は、占領軍の検閲のもとです  
すめられたという側面をもち  
ます。それが、特に精巧な組  
織をもって実施されたのは、  
昭和二〇年（一九四五）九月  
からの四年間で、対象は、新  
聞・雑誌・書籍・台本・広報

印刷物など、あらゆる表現活  
動に及び、郵便物の抜き取り  
検査や電話の盗聴でさえ頻繁  
に行われました。検閲の痕跡  
自体が検閲されたといえます。

その四年間に収集された  
新聞・雑誌類のサンプルは、  
「プランゲ文庫」の名でアメ  
リカ・メリーランド大学の図  
書館に保存されてきました。  
新聞・雑誌とも各一万数千タ  
イトルに及ぶ膨大なコレクション  
です。その一部はマイク  
ロフィルムなどの形で里帰り  
をはたし、いま国会図書館で  
閲覧可能になっています。

FILE印が残る、下記の

『荒中新聞』（昭和二四年七月  
一八日発行）は、「プランゲ文  
庫」中の一品です。新制荒井  
中学校は創立三年目、新築校  
舎がようやく完成し分校移転  
が完了した頃、「豊かな文藻を、  
美しい詩情を、眞に学校新聞  
に生かして学校民主化のさき  
がけたらん」とする新聞部が  
活動していました。

生徒たちの文章は、半世紀  
前の荒井村付近住民の暮らし  
ぶりをも彷彿させるのですが  
（入浜式塩田の見学記もあり  
ます）、検閲なしに同紙の保存  
がならなかったとすれば、  
少々歴史の皮肉を感じます。

（高砂市史編さん専門委員

大森 実）

